

## 札幌市立あつべつきた幼稚園の取組【雪に関する教育課程】

### 1. 研究のねらい

北国ならではの雪に存分に触れ、冬の自然に親しみ、積極的に戸外での遊びを楽しむことを通して、幼児の心と体がたくましく育ってほしいと願っている。また、冬の様々な自然事象に気付き、幼児が自ら考えたり、工夫したりしながらそれらを遊びに取り入れていく中で、遊びが更に豊かになるような環境を構成するよう心掛けている。そして、その遊びを通した生活こそが幼児一人一人の育ちにつながることを保護者にも発信し、共有していきたい。

### 2. 取組内容

#### (1) 雪に親しむ遊びを通して、雪や冬を楽しもうとする心と体を育む

##### ① 全身を思い切り動かして遊んだり、自然事象に気付いたりする

園庭にできた雪山は、幼児が自然と登りたくなり、滑る転がるなどして友達と一緒に遊ぶための格好の遊び場である。安全面を配慮して登り口には階段を作るが、斜面の側面に凸凹の箇所を意図的に作っておくことで、手足を踏ん張りながら挑戦意欲をもって果敢に登ったり、ずり落ちたりすることを楽しむ姿を引き出すことができる。平地では広い空間を利用して友達をそりに乗せて力一杯引いて歩く。このような環境を保障していくことは、足腰を使った全身運動にもつながっている。



また、雪玉作りは、友達と比べ合っているうちにどんどん大きく重くなるため、転がすために全身を使って力を込める。友達と力を合わせて作った雪だるまについては、気温の変化で頭が崩れ落ち、それが解けることで雪面にくっついて動かないことをおもしろがり、友達と知らせ合ったり、力を合わせて動かそうとしたりしている。このような幼児の発見、気付きを大切に取り上げることで自然事象の不思議さに関心を持ち、そのことを更に探究する姿につながっている。

##### ② 地域の身近な環境を活用し、雪遊びを楽しむ

四季を通じて散歩に行っている近隣の公園に米袋のそり、タイヤチューブ等を持って出掛ける。散歩の道中、普段見慣れている川の水が凍っており、夏の間、草をかき分けて歩いた道が真っ白な雪化粧になり、そこに動物の足跡が残っていることを発見し、歓声を上げる。同じ道でも季節によって様子が様々に変化することを感じ取れるように働き掛ける。また広い公園では、雪をかき分けながら進み、大きな築山を友達とつながりながら何度も滑り降りる。その楽しさから雪に埋まりながらも繰り返し斜面を駆け上がる。広大な場所で、全身を目一杯使



って雪に触れ、友達とつながりながら、園庭での遊びにはない、よりダイナミックな開放感を味わうことができるように近隣の自然環境を意図的に活用している。

## (2) 札幌の冬ならではの遊びの楽しさを保護者も共に体験する

### ○あそぼうの日（保育参加）

年間を通して数回、その季節に応じた幼児の遊びに保護者も加わりながら、遊びの楽しさや幼児の育ちを感じてもらおう機会を設けている。積雪の多い1月の環境として、園庭にそり滑り用の大きな雪山を作り、園庭で存分に雪に触れ、思い切り体を動かしながら開放感を味わう大切さを保護者も幼児と一緒に体験してもらう。冬休み



中、各家庭に米袋のそり作りをお願いし、新学期には幼児が持ち寄った自家製そりで自分なりに滑り方を試したり、友達とつなげて滑ったりする。また『魔法のじゅうたん』と名付けたデスクマットを活用した大きなそりに大勢で乗り込み、みんなで滑る一体感とスピード感を味わう。

また、この時期の保育参加には父親の参加も呼び掛け、園庭にできた雪山の一角を父親ならではの力を借りて掘ってもらい、幼児も一緒に手伝いながらかまくら作りをする。保護者も幼児とともに歓声を上げながら雪の感触を楽しみ、冷たい風を心地よく感じたり、共に汗をかきながら雪穴を掘って完成を楽しみ遊んだりする。保護者も一緒に雪遊びに参加してもらうことで、遊びが更に盛り上がり、幼児だけでは実現しにくい、よりダイナミックな遊びにつながったりする。

## 3. 成果と課題

### (1) 成果

この時期に寒さに負けず、幼児が進んで戸外に出掛け、自ら体を動かす楽しさを味わう中で、雪という素材に出会い、友達と一緒に様々な発見に心を動かしながら遊ぶことは、多様な経験となり、幼児期の豊かな発達につながっていく。また、身近な地域の環境を生かすことは、幼児自身が自分を取り巻く環境に対する興味・関心を深めることにもつながる。そして保護者も幼児と一緒に様々な雪遊びのおもしろさを体験することによって、家庭での話題や遊びの広がりにもつながり、更に幼児が雪に親しむ心情を育むことになる。



### (2) 課題

「雪遊びの保育参加」は、まだ一部の保護者の参加でもあり、雪遊びの取組の様子や楽しみ方について、更に多くの保護者にタイムリーに発信していく。また冬の寒さの中でもたくましく遊び、自然事象の変化に気づき、雪や氷の不思議さやおもしろさを楽しみ遊び込んでいけるよう意図的な環境の工夫を心掛けていく。